

# 館報 教育記念館

No. 82  
平成26年3月 発行



第31回  
特別支援学校  
みんながんばってます  
作品展

第44回  
富山県造形教育作品展



## 主な内容

◎教育時評 「誇って良い、富山県教育記念館」 富山県郷土史会副会長 須山 盛彰	2
◎わが校の歴史から I ★高岡市立西広谷小学校	3
◎後期恒例展から	4
「特別支援学校みんながんばってます作品展」「富山県造形教育作品展」 「教職員厚生会退職厚生部富山支部作品展」「富山県中学校美術展」 「アイデア・ロボット・フェスタ」「版造形教育展 秀作回顧展」	
◎わが校の歴史から II ★黒部市立東布施小学校 ★黒部市立田家小学校 ★南砺市立平小学校 ★南砺市立上平小学校	6
◎「学ぼう！ふるさと未来」支援事業実践活動報告会 平成26年度の展示計画 あとがき	8



発行所／公益財団法人 富山県ひとつくり財団 富山県教育記念館 〒930-0018 富山市千歳町 1-5-1  
TEL (076) 444-2000 FAX (076) 444-2001 E-mail: toyama@t-hito.or.jp http://www.t-hito.or.jp  
(教育記念館会議室ご利用の場合 ☎(076) 433-2770)  
発行人／富山県教育記念館 館長 伏黒 昇 印刷所／いおざき印刷株式会社



## 誇って良い、富山県教育記念館

富山県郷土史会

副会長 須山盛彰

長らく教育記念館の事業に関わらせていただいた者の一人として、感謝の意を込めながらこの一文を記したい。

### 近代教育百年を記念して設立

「富山県教育記念館」を「博物館」と認識している人はどのくらいおられるだろうか？名称に「博物館」と付いていないので、あるいは組織が設立当初と変わったので、認識不十分な面があるのではなかろうか。しかし、教育記念館は単なる教育関係団体のオフィスビルではなく、設立以来今日まで、連綿として教育博物館としての事業が継続されており、全国的にもユニークな存在なのである。

富山県教育記念館は、昭和52年（1977）7月、教育百年を記念して建設された。明治5年（1872）、学制頒布されて以来の近代教育の大きな流れを記念し、研究・展示などの活動を通じて教育の更なる発展に寄与しようとするものであった。建設資金は県民の拠金と県の助成により賄われ、県・県民・教育界の三位一体の運営がはかられた（「館報」第1号）。

### 教育博物館としての多彩な活動

全国に例のない教育博物館をどのようなコンセプトで構想するかについては、事前に十分に時間をかけて検討されたようである。

結果、展示施設は教育記念室と郷土先賢室の2室とし、史資料の収集を図るとともにテーマを設けて研究し、その成果を展示・刊行していくという基本方針が決められた。

幸い先行研究物として『富山県教育史』上下2巻が刊行されており、その際の収集資料があり、研究スタッフが活動されていた。専任の学芸員を置かず、館長以下わずかな職員で運営されることになった当館であるが、県内の学校および教育機

関と直結することによりユニークな活動を展開するようになった。

すなわち、現場の先生方を当館の専門員に委嘱しチームを組んで研究にあたり、記念室および先賢室の展示や刊行物の作成にあたった。1テーマに2年、3年と時間をかけることにより、専門の学芸員にひけを取らない成果を上げることができた。専門員にはできるだけ長く携わっていただき、落ち着いて研究ができるように配慮された。

このようにして研究された成果は、記念室部会では、「富山の子ども100年展」、「寺子屋と天神信仰展」、「栄光への歩み展」などの数十件に上る展示を、郷土先賢部会では順次、人物の人となりや業績について資料と合わせて総計129名の展示を行ってきた。そのほか、教育記念館会議や子ども県議会の開催、現場での教材研究等にも情報を提供して来た。

### 教育記念館の未来

以上、簡単ながら述べて来たように、創設以来37年間の実績は大きなものがあり、声を大にして誇って良いと思う。

しかし、今後の課題も多い。膨大な資料の保存・管理、施設の老朽化、単独館でないこと等々。『富山県教育史』改定の必要も指摘されており、過去の蓄積があるだけに未来は重い課題ばかりだ。

富山県には立山博物館のような専門博物館は幾つかあるが、県立の総合歴史・文化博物館がない。これまで、教育記念館は県立博物館に代わるような働きをもってきたと思うが、いかがであろうか。県は現在、近代美術館の移転を準備中だが、早晩、他の教育施設等についても及ぶであろう。教育博物館としての教育記念館の存立の意義を声を大にして、叫んでおきたい。

## わが校の歴史から

### 特集Ⅰ 歴史ある学校が閉校



鶯の鳴き声が響き  
心が通い合う学校

高岡市立西広谷小学校



#### <校区の概要>

北は氷見市に接する丘陵地にあり、西広谷、勝木原、山川の3地区からなる中山間地である。また、氷見市の細越からも区域外就学により通学している。これら4地区の世帯数は百戸あまりで高齢者が多く、児童はお年寄りと触れ合う機会が多い。

地域住民の学校教育への関心は高く、しめじの菌打ち、ゲートボール交流、わら細工、炭焼き・茶道体験等、地域の自然や伝統を生かした教育活動全般にわたって大変協力的である。

#### <学校の概要>

明治25年に西広谷尋常小学校として誕生し、昭和16年には西広谷国民学校、昭和22年には西広谷小学校、昭和28年には高岡市立西広谷小学校と改称されてきた。

現在の校舎は昭和63年に多くの方々のご尽力により建設され、続いて体育館、プール、運動場と完備され、今日まで大切に使われ美しさを保ってきている。今年度で1,340名の卒業生が伝統ある学び舎を巣立つ。

平成21年度より小規模特認校制度が実施され、本年度の児童数9名のうち7名がこの制度を利用して通学している。四季折々の豊かな自然に恵まれ、121年の永きにわたり地域の住民から愛され続けてきた西広谷小学校は、平成26年3月、歴史の幕を閉じる。

#### <特色ある活動>

鶯の鳴き声が響き、心が通い合う温かい校舎で「ここで学んでよかった、ここで育てよかった」と、誇りに思える学校を目指し、日々教育活動に取り組んでいる。

#### ○「ひろたん学習」

「ひろたん学習」とは、西広谷の人や自然のよさを生かし、児童全員で行う地域学習である。

昨年の「勝木原探検」では、児童が企画したオリエンテーリングを行い、沢に湧き出る「たまご水」の収集、勝木原牧場の見学、カブトムシ採り等を体験した。また、今年の「山川探検」では、地域に伝わる菅笠作りや、白山神社、山川キャンプ場などについて、地域の方々へのインタビューを交えながら調査を重ねた。

この学習を通して地域の歴史を知るとともに、豊かな自然や優しい人々に囲まれた校区の魅力を再発見することができている。学習のまとめとして作成しているパンフレットやしおり等は地域の方々到大変喜んでいただいている。

#### ○朝市「西広谷ショップ」

児童は地域の方々と共に育てた作物や、グラウンドの銀杏や零余子から収集した実、朝顔の蔓で作ったリース等を、「たかおか朝市」で販売している。西広谷の野菜をたくさんの人に食べてもらおうと、零余子などの珍しい山の恵みには、自分たちで調べたレシピを添えている。

朝市の活動は、野菜の栽培や地域の恵みの収集等を通して地域の人々との関わりを深めるだけでなく、より広く多くの方々に西広谷のよさを伝えることにつながっている。

#### ○マリンバ演奏

平成18年より、クラブ活動の一環として全校児童がマリンバの演奏に取り組んでいる。これまでに学校祭や区域の音楽会をはじめ、「富山県子どもフェスティバル」への出演等、外部への発表も継続して行っている。多くの方々からの賞賛や励ましが児童の励みとなっている。

# 後 期 恒 例 展

## 第24回 富山県中学校美術展

県内80校から選ばれた、204点の豊かな感性に溢れた力作が集まりました。



## 第31回 みんながんばってます作品展

今年は、新たにできた高等支援学校も参加し、15校から280名が力作を発表しました。



## アイデアロボットフェスタ (チャレンジデー・ロボット教室)

ロボコン全国大会のロボット大賞受賞作品をはじめ、製作者のアイデアの結晶が展示・発表されました。



## 第44回 県造形教育作品展

幼稚園・保育園・小学校・中学校・高等学校64校から、それぞれの年代の素晴らしい作品が集まりました。



## 第29回 教職員厚生会退職 厚生部富山支部会員作品展

絵画・書をはじめ、写真や工芸作品、学習成果品等、力作118点が出品されました。



## 版造形教育作品 秀作回顧展

平成15年から平成20年までの秀作版画144点を展示しています。



### 「ふせっこ」を心に刻み

#### 黒部市立東布施小学校



東布施小学校は、昭和48年に尾山小学校と田初小学校が統合して誕生した。40年の歴史をもつ東布施小学校の大きな特色は、ふるさとに育てられ、ふるさとに学んできたことである。

地域の多大なる支援・協力のもと、「丸いもやそばの栽培」、「米づくり・炭焼き体験」「ドングリの木の植樹」等数々の体験活動を行ってきた。一方で、下学年は週に1度、地域ボランティアの方から読み聞かせをしてもらっている。上学年はクラブ活動で地域の高齢者の方々から調理の仕方やミシンの使い方等を教わっている。また、秋には全校で三世代交流会を行い、地域の高齢者・保護者・子どもたちが一体となって交流を行っている。このような活動を振り返ってみると、どの活動からも地域の方々の東布施小学校の子どもたちに豊かな体験をさせたい、そして、ふるさとを愛する心を育てたいという熱い思いが伝わってくる。

一方で、田植えの時期には雪絵が浮かぶ僧ヶ岳が目の前にあり、グラウンドの横を布施川が流れる。また、すぐ近くに雑木林があり、学校周辺には様々な植物が生育し、鳥や虫が飛び交うという環境の中に本校がある。僧ヶ岳や雑木林、植物・昆虫に親しむ中で四季を感じ、布施川や上流の地層を観察して理科の学習に生かし、さらには東布施の治水や産業発展の過程を学ぶ学習に結び付けてきた。東布施の豊かな自然を基に、様々なことを学んできたといえよう。

このような環境の中、学校教育の具体目標を「ふせっこ」としてきた。「ふ」は「ふるさとに学ぶ子」、「せつ」は「積極的に行動する子」、「こ」は「心も体も鍛える子」である。東布施小学校の歴史は幕を閉じるが、子どもたちが東布施を愛する心を持ち、「ふせっこ」を心に刻んで、新たな一歩を踏み出すことを願っている。

### 新たな時代へバトンタッチ

#### 黒部市立田家小学校



本校は、明治11年に地元のお寺の堂宇を借り「致道小学校」として創立されました。明治16年に新校舎を独立して建て、明治20年に田家小学校と改称しました。昭和53年に現在の場所に校舎とグラウンドができ、今に至っています。

本校の校歌は、立山の気高い姿、布施川の尽きない流れ、田圃の豊かな実りを謳っています。学校の屋上に立つと、僧ヶ岳の勇姿が目前に迫り、立山連峰、布施川の流れ、富山湾の全景を眺めることができます。

近年は、文科省の「体力づくり」推進校、小教研体育科研究推進校の指定を受け、学校教育目標の一つである「たくましく健康な子」の育成に力を入れてきました。毎週木曜日の業前に行う「全校リレー」（縦割り活動）は、本校の伝統ある活動であり、体力づくりだけでなく全校児童の一体感を醸成する特色ある取組です。全校リレーでつなぐバトンは、きっと子どもたちの心もつないでいます。それは、子どもたちの心がつながる時間です。また、晴れた日の大休憩は、「学校からっぽタイム」として全校児童に外遊びを奨励しています。

そして、閉校間近となった昨年度と本年度は、統合する東布施小学校とともに小教研理科研究推進校の指定を受けました。両校で課題解明に向けて、全職員で試行錯誤を繰り返し、数々の授業実践や研究協議に取り組んできました。

永い伝統を受け継いで参りました田家小学校も、平成25年度をもって閉校します。この間、たくさんの卒業生がこの学舎を巣立ち、現在、各界で活躍されています。

そして、平成26年4月からは、現在の校舎を活用し、東布施小学校と統合して「たかせ小学校」となります。これまで137年間培ってきたよき伝統と歴史を新たな時代へとバトンタッチしていきます。

## 南砺市立平小学校



## 地域とともに

本校は、世界遺産相倉合掌集落のある五箇山の地に、平成11年4月に下梨小学校と東中江小学校が統合されて誕生した児童数45名の小規模校で、今年3月に閉校になることが決まっています。

本校では、旧平村に位置する唯一の小学校として、心豊かで創造的にたくましく生きる子どもの育成を目指し、地域とともに手を取り合いながら特色ある学校づくりに取り組んできました。

### (1) 開校当初から継続して取り組んできた活動

開校当初から取り組んできた特色ある活動としては、地域の保存会の方に指導を受けながら「麦屋節」や「こきりこ唄」等の民謡を練習し学習発表会等で披露する民謡学習、平中学校・南砺平高等学校と合同で行う小中高合同運動会、もち米づくりととちの実拾い、あく抜き等を組み合わせた「とちもち作り」、PTAも協力して行う校内スキー大会等があげられます。

### (2) 平小学校開校後に始めた活動

現在本校で行っている活動のうち、俳句作りや乙川東小学校との交流は、平小学校開校後に始めた活動です。このうち、俳句づくりは、地域の自然や文化の素晴らしさを捉える感性を育成するために、朝活動の時間を活用して行っているもので、NHK俳句コンクールジュニアの部で学校賞(特別賞)をいただく等、外部にも認められる活動となっています。

4月より、隣接する上平小学校と統合された新しい小学校の歴史が始まりますが、本校のよき伝統と上平小学校のよき伝統を受け継ぐとともに、両校の良さを融和した特色ある学校が作られていきます。

## 南砺市立上平小学校



## 伸びゆく上小っ子

明治43年に西赤尾、皆笹に尋常小学校が創立されました。その2校が昭和52年に統合されて「上平村立上平小学校」が開校して以来、37年の年月が流れました。この間、地域に生きる小学校として、上平地域でなければできない教育活動を展開してきました。

春には、山に入ってワラビ採り、菅沼の合掌造り集落の隣で田植え、夏には、学校林の下草刈り、庄川ヘイワナの放流、秋には、学習発表会でこきりこや麦屋節等の民謡を発表し、春に植えた稲を刈り取りました。冬には、タカンボースキー場で2回スキー教室を実施し、地域のスキー大会にも全校挙げて参加しました。このような、地域の自然と生活に結び付いた活動を通して、地域を愛し、大切に思う気持ちが育ってきています。また、25年度には、走り高跳びで富山県代表となり全国大会に出場する児童がありましたし、スポーツ少年団活動やクロスカントリースキーの活躍は、多くの人々に知られるところです。

上平地域は、世界遺産の菅沼合掌造り集落を擁し、東海北陸自動車道のインターチェンジを有することなどから、大きくはなくても、独自の素晴らしい文化と伝統をもつ地域として今後のさらなる発展が期待されています。この度平小学校との統合により、新たな「上平小学校」としてスタートを切ります。子どもたちが地域のよさを見つめ、世界に広く目を開き、郷土の発展に貢献する大人に成長してほしいと願っています。

# 「学ぼう！ふるさと未来」支援事業 実践活動報告会

平成26年2月5日(水) 富山県教育記念館

## 入善町立ひばり野小学校

地域の文化や人にかかわり、地域を愛する子どもを育てる  
—まるごと大好き！ふるさとパワー—



祝い行事「米つり」に参加

## 魚津市立松倉小学校

地域の自然・文化・人にかかわり地域を大切にする子どもを育てる  
—地域発見・松倉大好きっ子作戦—



保存会の方と獅子舞を稽古

## 富山市立宮野小学校

地域の一員としての自覚をもって地域に関わる子どもの育成  
—イタイイタイ病を伝えよう—



神岡鉱業を見学

## 氷見市立速川小学校

ふるさとを愛し、ふるさとに生きる児童の育成  
—家庭・地域の教育力をバランスよく生かすふるさと学習—



ミオスギのコースターを贈る  
あったかハートお届け隊

## 南砺市立福野小学校

福野地域の歴史や文化、産業や施設等を調べたり、地域の特産物を育てたりする活動を通して、福野地域に愛着をもつ子どもを育てる



いもがい餅づくりに挑戦

あ・と・が・き

各校の工夫を凝らした「学ぼう！ふるさと未来」の活動は、未来の地域を担うひとつづくりに直結していることを改めて強く感じました。

成果は本館1階に展示してあります。



## 平成26年度の展示計画

- ◆「肖像画で見る郷土の先賢」
- ◆第5回「児童・生徒によるものづくり展」
- ◆第12回「さんすうワールド展」
- ◆第11回「子どもの目・自然不思議発見写真展」
- ◆第30回「退職教職員厚生部富山支部会員作品展」
- ◆第32回「特別支援学校・みんながんばってます作品展」
- ◆第45回「富山県造形教育作品展」
- ◆第10回「アイディア・ロボット・フェスタ」ロボット展
- ◆第25回「富山県中学校美術展」
- ◆第8回「富山県版造形教育作品展・秀作回顧展」

- 4月26日(土)～5月25日(日)
- 6月11日(水)～7月13日(日)
- 7月25日(金)～8月24日(日)
- 9月4日(木)～10月12日(日)
- 10月17日(金)～10月26日(日)
- 10月30日(木)～11月16日(日)
- 11月22日(土)～12月7日(日)
- 12月13日(土)～1月18日(日)
- 2月1日(日)～2月15日(日)
- 2月26日(木)～4月5日(日)